

第2回安全対策連絡協議会
(議事録)

令和2年3月
在サイパン領事事務所

1 開催日時: 令和2年3月5日15時から16時(於: 当事務所会議室)

2 出席者:

日本人会: 手塚真人会長、西田智彦副会長、南須原紀子総務部長

JSTA: 荒井亮磨会長、高橋成典副会長

サイパン日本人補習校: 亀ヶ谷誠一運営委員長、須永智校長

個人資格: ゲレロ理得子氏

当事務所: 小野一彦所長、折田恵美職員

3 議題

- (1) 前回の協議会のレビュー
- (2) 新型コロナウイルスに対する当地政府の対応
- (3) 新型コロナウイルスに対する当事務所の対応

4 当事務所からの説明内容

(1) 冒頭小野所長から、次のとおり述べました。

前回の協議会でも述べたとおり、本協議会は、単に事務所からの情報提供や指導の場ではなく、安全問題について事務所と在留邦人とが情報交換を行うとともに、邦人社会全体としての危機管理意識・対応能力の向上を目指すものである。

今回は、前回の協議会のポイントを総括した上で、特に問題がなければ、本日の議題である議題2及び3について突っ込んだ意見交換を行いたい。また、幸い当地においては大きな被害は生じなかったものの、昨年10月にはハギビス(台風15号)及びブアローイ(同19号)が発生したこともあり、今後も台風の襲来には引き続き警戒する必要がある。また、今回の新型コロナウイルスに際しては、日本政府は計5回にわたり帰国のためのチャーター便を武漢まで運航するというオペレーションを実施したが、このようなケースは極めて例外的な措置であり、緊急事態において在外公館ができる支援や措置には限界があることを御理解願いたい。

(2) 続いて小野所長から、資料に基づき議題1、2及び3について説明しました。なお、議題1については、参加者から特段の異論はなかったため報告は省略。

5 参加者からの情報・意見等

(1) 新型コロナウイルスに対する当地政府の対応について

・比較的早い段階で、当地政府が中国からのフライトを運休したのは評価できる。サーズ(SARS)

に比べると、今回の新型コロナウイルスは感染の症例数が多く、また、サーズの際は日本人の感染が皆無であったことから、どこか対岸の火事のようなところがあったことを記憶している。中国での感染は収まりつつあるとの情報もあるが、実際には感染者がもつているのではないかと懸念している。今後米国が日本人を入国拒否にした場合はどうなるのか。仮にそうなった場合には、業績に相当影響が生じるであろうし、その際サイパン滞在中の邦人旅行者はどう扱われるのかなど不安は尽きない。さらには、従業員への休業保障の問題、また家族や従業員が感染したら、この小さい島で感染拡大を食い止めるのは難しいのではないかなど不安材料は多々あるが、当地政府の初動対応自体は評価できる。

・確かに、政府の初動対応は早かった。一方で、当地政府には旅行者の入国に関する権限は与えられていないので、連邦の入国制限措置を待っての対応になってしまったのではないかと考える。新聞等で報道されている対応策は抽象的なものであり、仮に実際に感染者が出た場合には、北マリアナ公立病院でどの程度の患者を収容可能なのか、患者はどのように隔離されるのか、医療保険は適用されるのか、休業保障はあるのか等具体的な状況は分からない。その面では日本は進んでいると思う。いずれにせよ、感染のリスクはいつでも誰でもあり得るので、検査体制や隔離施設等の具体的な対応策を含め政府が発信すべきだと考える。そういった状況が見えないのが不安を招く原因である。

・所長の説明によると、当地において感染の疑い事例が出た場合、検体をハワイに送付して検査が行われるとのことであるが、当地政府の初動対応は評価すべきであったと思う。一方で、その後の対策や身近な対応に関しては情報を全く入手できないのは一体どうなっているのかと疑問を感じざるを得ない。このような状況で、仮に陽性反応が出た場合には、どのような発表があるのだろうか。従業員への休業補償を含めた対応等、自分達では判断が付き辛いため具体的に分かるのであればありがたい。また、万が一日本人に対して入国制限が課せられた場合には、日本に帰国したくても帰国できない事態が生じるが、その後この点についても情報が得られていない。

・サイパン滞在中の邦人旅行者から不安の声を聞いている。サイパンは現在ウインドサーフィンの季節なので、長期滞在の邦人旅行者が多いが、日本人に対する入国制限が課せられた場合、こうした邦人旅行者は日本に帰国するより引き続き当地に滞在するらしい。ESTA取得者は比較的長期間当地での滞在は可能ではあるが、滞在期間が期限を超過することも考慮すると、やはり帰国が可能な時期に帰国した方が良いのではないかと邦人旅行者には勧めている。

・仮に、当地において感染者が発生した場合の対応はどうなるのか。自分達のような旅行会社としての対応はどうしたらよいのか。また、補習校は引き続き授業を行うのか、それとも休校とするのか。

・サイパンにおける対応はCDC(アメリカ疾病予防管理センター)の指針に基づき実施されると承知するが、検体を採取した後に検査で陽性反応が出るまでには時間がかかる。そうした状況下で、どこまでの範囲を濃厚接触者と見なすのか。どのような権限やガイドラインを実施に移すのかは不透明である。

・残念ながら、当地政府は感染予防より寧ろ財政難の話を議論している。休業保障に関しては、

台風被害後の事例を見れば、米国籍だけが対象となるのではないかと予測される。

補習校に関しては、感染者が一人でも出たら休校せざるを得ないが、感染者が発生しなければ引き続き授業を行う。現在日本政府が国内の学校に対し休校を呼び掛けているが、これはあくまで要請であって、法的な強制力はない。当地政府の対応を注視していると、決定自体は素早いものの、具体的な対応のプロセスは遅いと感じる。

- ・フェイスブックでは、新型コロナウイルスに関するデマが流れたが、公立病院が直ちにデマを訂正する発表をしたのは良かった。

- ・香港エクスプレスの運休が決まり、130名程の中国人旅行者が当地で立ち往生したとのことであるが、その後彼らはどうなったのか(これに対して所長から、現状で当事務所に対し査証を求め、中国人旅行者はいない。中国人が無査証で当地に滞在可能なのは15日間であり、それを過ぎれば不法滞在となってしまうため、帰国せざるを得ない。本件については、先般トレス知事が香港エクスプレス側に救済措置を要請し、また、アジアナ航空がこうした中国人旅行者の搭乗を認めることとなったため、現状ではほぼ解決したのではないかと見ている旨回答。)

(2) 新型コロナウイルスに対する当事務所の対応について

- ・日本の報道を見ていると、マスクや除菌用ローションの購入が困難となっているようであるが、サイパンにおいても日本同様入手が困難な状況であり、不安に感じることがある。ついては、そうした物資がどこで購入可能なのかについて情報があれば嬉しい。また、ミクロネシアが日本人の入国を拒否としたとの情報があるが、ここで言うミクロネシアの範囲はどこなのか。そこにはサイパンも含まれるのか(これに対し所長から、ここでの「ミクロネシア」とはミクロネシア連邦を指しているが、勿論サイパンは含まれない。本件は日本の某テレビ局の誤報であり、スカイマーク航空のホームページを見れば、本件が誤報であることが明記されている旨説明。)

- ・1月下旬から2月上旬にかけて、中国人の入国制限がかかった時点では自分が勤めるホテルのキャンセルはそれ程多くなかったが、韓国からのフライトが減便あるいは運休となった途端、大量のキャンセルが入るようになった。特に、年配者や子連れの韓国人旅行者のキャンセルが多い。その一方で、報道が過剰な点も気になっており、実際にサイパンに来訪した旅行者は皆楽しんで帰国している。

- ・サイパンにおいて新型コロナウイルスの疑い例が発生した場合、検体をハワイに送付して検査するとのことであるが、結果が判明するまでの時間はどれ程かかるのか。また、疑い例の患者は適切に隔離されるのか。報道によると、公立病院に搬送されるとあるが実際はどうか。

- ・サイパンに検査キットを導入する話はないのか。実際に検体をハワイの検査機関に送付して結果が出るまでにどれくらいの時間がかかるのか(これに対し所長から、検査キットは日本でも少ないのが現状である。また、ハワイ往復の要する輸送時間と検査にかかる日数を合わせると、現状では陽性が判明するまでには、10日前後を要していると回答。)

- ・仮に、米国政府が日本人への入国制限を課すこととなった場合、当地における発動時期等のタイミングについて、領事事務所からも情報を発信してほしい。

- ・当地の空港到着時に発熱がある場合、通常とは別ルートで入国検査が実施されるのか。また、その際係官はそれをどうやって判断しているのか(これに対し所長から、当地の状況については詳細を承知しないが、日本では入国者を特殊なカメラで監視するとともに、細かく入国者の表情や行動を監視し、何か問題がある場合には、通常者とは別ルートで検疫を行っている」と承知する旨回答。)
- ・これまでにサイパン空港において隔離や帰還措置が執られたことはないのか。
- ・自分が扱った邦人旅行者で、入国に際して「最近病院に行ったことはあるか」の質問に「Yes」とした(歯医者に通院したため)、通常とは別ルートで検疫を受けることとなり、入国するまでにかんがりの時間を要したことがあった。当地においても、空港で症状をしっかりと監視している証である。
- ・自分の体験によると、当地のファミリークリニックにおいても、事前スクリーニングを実施しているようである。
- ・領事事務所からは新型コロナウイルスに関する領事メールを発信していただいているが、社内の指針となっており役立っている。ただし、もう少し定期的に発出していただければ更にありがたい。また、万一感染した場合にはどうすれば良いのか等の生活情報も併せて発信してもらえればありがたい。
- ・新型コロナウイルスに関しては、グアムの在ハガツニャ総領事館とサイパン領事事務所では注意喚起が別々に発出されているようであるが、何故内容が違うのか(これに対し所長から、それぞれ管轄地域が異なるからである旨回答。)
- ・現在弊社ではBCP(事業継続計画)を策定したいと考えているが、そのための情報が少ない。当地政府、例えば労働局が発出する情報等の抜粋版でも構わないので、領事事務所から発信してもらえるとありがたい。
- ・情報源が領事事務所であると情報に信頼感が出る。また、邦人旅行者にも安心を与えられるので、できることならこまめな情報発信と有益な情報提供を心掛けてほしい。
- ・勿論、当地において感染者が出た場合には、素早い情報の提供がより重要であり、正確な情報発信をお願いしたい。
- ・米国政府が検討中と言われる日本人への入国制限について、日本政府は米側と交渉を行っているのか。どの時点でこれが明らかになると考えるか。(これに対し所長からは、全く予想がつかないが、一度制限を課してしまうと、人的往来だけでなく、カネやモノの流れも止まってしまうという負の効果が大きいので重大な決断となるのではないかという旨回答。)